

令和2年度第2回国立研究開発法人森林研究・整備機構契約監視委員会概要

|           |  |
|-----------|--|
| 1. 開催日時   | 令和2年12月18日（金）13:30～15:30   |
| 2. 場所     | 森林総合研究所特別会議室及び各センターTV会議室   |
| 3. 出席者    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・風間委員長、高橋委員、鈴木委員（監事）、平川委員（監事）</li> <li>・森林総合研究所、林木育種センター、森林整備センター、森林保険センター契約担当者</li> </ul>  |
| 4. 審議等の概要 | <p>(1) 令和2年度上半期における契約状況</p> <p>(質問及び回答)</p> <p>①「令和2年度上半期の一者応札・応募状況」（表）の合計の欄で、令和元年度135件で、「令和2年度上半期における契約状況（調達全体）」（表）の小計の欄の額と合っていますが、令和2年度上半期は133件となっている。比べるとすれば、134件の11億5千7百万円ではないか。</p> <p>(回答) 「令和2年度上半期の一者応札・応募状況」には不落・不調の件数と金額は入っていないため。</p> <p>②令和2年度上半期の状況（各センター別）の競争性のない随意契約について、森林整備センターは同程度とのことだが、約95万円違う。これは借り上げ住宅の価格だと思うが、100万円近い減少とは、こういった理由か。</p> <p>(回答) 契約内容が異なるため。</p> <p>(2) 令和元年度下半期及び令和2年度上半期契約の随意契約及び一者応札・応募案件</p> <p>事務局説明：一者応札一覧表の研究育種において、1者応札の表に間違っって複数者応札が3件入っていた。修正を行いリストからは削除し、欄外に記載した。今後はこのようなことがないように、資料作成する際には、バックデータを提出させて再チェックする。</p> <p>(質問及び回答)</p> <p>①今回、複数応札の案件もリストアップされていたが、これとは逆に1者応札で、リストアップされないという可能性もある。これに関しても検証して、そういったものはなかった、という理解か。</p> <p>(回答) 全件チェックした結果、そのようなものはなかった。</p> <p>②電子複写機賃貸借及び保守管理業務について、落札率が低い理由に、『低入札調査実施案件』と記載されているが、この低入札調査はどのような場合に行うのか。</p> <p>(回答) 低入札調査とは、予定価格が1,000万円以上で、その6割を調査基準価格と設定し、それを下回ったものについては低入札調査を実施後に落札業者を決定しなければならないと規程に定められている。電子複写機賃貸借及び保守管理業務は安価で契約しているが、5年の総額がその金額を下回ったので、低入札調査実施の対象案件となった。</p> <p>③価格証明書の割引率が0%であるとか、定価証明書の4.8%とあるが、単純に先方から0%や4.8%と数字が示され、それで予定価格を作るといふときに、例えば経費をなるべく安く抑えたいという発想で、こちら側から4.8%だったら5%に値引きしてもらおうか等の検討はしているのか。</p> |

(回答) 予定価格なので、適正に納品される価格を積算するもので、こちらが予算上で入れていただきたい価格で予定価格を立てるというものではない。

④森林総合研究所クレーン点検保守業務の入札参加資格の等級で、B,C,D に格付けされている事業者を参加資格としているが、A 等級を含めていない理由は何かあるのか。

(回答) 今回の場合は、地域性も多少ある。A 等級となると全国的にやっている業者になるので、中小企業への配慮も我々に求められている中で、どこまでの等級にしようかと検討した際に B,C,D であれば十分であろうと判断したが、結果的には 1 者応札となった。

⑤ 1 者である理由のところに、「クレーン業界では、自社で設置した機器以外の点検保守は敬遠し、入札に参加しない傾向があるのではないかと思慮する」とあるが、そういう事情があれば、購入以外にもリースをするという選択肢もあると思う。今、使っているクレーンの更新時期になったときに、購入以外にもリースという選択肢もある。選択肢の幅を広げていった方が多くの事業者の入札参加を見込めるので、リースの選択肢も検討願いたい。

(回答) 更新する時期などにリース契約についても検討したい。

⑥多摩森林科学園災害復旧工事 (B 工区工事) について

- ・ 最初の入札では、参加者がいなかったということで、2 回目と 3 回目は何者か入札参加者がいたのか。
- ・ 工区は B 工区だが、何工区に分かれているのか。
- ・ B 工区以外は、全て複数者が入札して落札されているのか。
- ・ A~C までの工区の事業者はすべて違う事業者か。
- ・ 入札参加者を増やすための努力はしているであろうが、なるべく多くの事業者が入札参加できるような手法を検討願う。

(回答)

- ・ 2 回目は 1 者参加。(資料請求は 4 者) 入札は 2 回。
- ・ 4 工区予定していた。
- ・ C 工区は 1 回目の入札で落札者が決定。A 工区は、1 回目が不落、2 回目で落札。D 工区は 3 回入札したが、全て不調で終わった。
- ・ 全て違う業者。

⑦多摩森林科学園災害復旧工事 (B 工区工事) 不落後に契約締結となった経緯で、1 回不落になっただけで、すぐ随意契約をするケースと、何回か入札を繰り返すケースと、どういう判断によって行っているのか。

(回答) 基本的には、随意契約が「出来る」規定なので、可能な限り競争をするのが根本的な考え方である。次の入札をやっても全く見込みがないという場合には、その時点で不落随契をすることもあり得るかもしれないが、一定の関心を持っている者があるとすれば、再度入札をしていくという考え方である。

⑧いずみ倉庫の工事契約について、先ほど、現場に 1 時間以内の到着を条件としたという説明だったが、福島県内の役所や県庁に周知することは出来なかったのか。

(回答) 平成 26 年度以降工事の入札実績がなく工事関係者の閲覧が期待できなかったことから林野庁に関しては、ホームページに掲載したが、地方自治体については、一般的に特定の団体等に融通はしないということなので、公告依頼はしていない。

⑨森林保険について、契約単価の設定方法が、以前は保険料に対して一定率をかけるというところから、保険金に対して一定率をかけるという仕組みに変える途中だということだが、例えば保険金に対して一定率をかけるという制度になった場合に、一定率というの

は今後変更はされるのか、それとも毎年同じ率で変更しないのか、どういう仕組みを想定しているか。

(回答)今のところ、31年・令和元年度から切り替えている。令和4年にかけて切り替えて、その後は保険料に対応した保険金額に1000分の0.48という率でいくというところで、その先は変える予定は今のところはない。

(3) 令和元年度下半期及び令和2年度上半期契約の2ヶ年連続の一者応札・応募案件  
(計32件)

(質問及び回答)

①2ヶ年連続とあるが、3年や5年連続というのものもあるか。

(回答)3年連続は22件ある。

②電子入札システムについて、現在導入の予定はないとのことだが、今、リモートワークや電子書類化等、国としても実施しているところだが、そういった検討はしているのか。

(回答)電子入札システムはこちらの会計システムと連動して使っていくべきものと考えているので、経理システムの全体を考えながら、電子入札についても考えていければと思う。今後、検討していく。

(4) 競争性のない新たな随意契約案件について(計4件)

(4件の案件について説明し、特に意見等がなかった。)

5. その他

特に意見等はなかった。

6. 審議結果の取りまとめ

今回の審議について、委員会として取りまとめる。

取りまとめた結果について報告する。

1. リストアップされた案件に一部ミスがあったということで、今後は正確なものを提出いただきたい。

2. 入札参加資格と公告の周知方法について、再度検討いただき、さらに入札の競争性を高めるよう引き続き努力をお願いします。

3. 設備更新の際は、購入ではなくリースという選択肢もあるので、その点も検討願う。

以上。